

事前課題 説明資料

【1】留意事項

- ◎実践研修での事前課題は以下のとおりとなります。「事前課題」は講義動画の視聴前から取り組むことができますので、演習日までに計画的に作成してください。なお、講義動画の最後の単元では、事前課題について説明しておりますので、事前課題作成の参考としてください。
- ◎事前課題では、事例検討用に担当ケースについてまとめる作業や、事業所が所在する地域のサービス担当者会議や自立支援協議会、地域生活支援拠点の状況について調べる項目があり、今後のサビ児管として業務を行うことを見据えて、可能な限り、職場の先輩サビ児管や、上司からの助言を得て作成をお願いいたします。
- ◎事前課題は受講する研修団体の指示に従ってご提出いただきます。事前課題の提出が無い場合は、演習を受講できませんので予めご了承ください。

【2】事務局提出用資料、グループ配布用資料(事前課題の未記入は認められません)

受付提出用・自分用	事前課題提出書(表紙) 事前課題①、②、③(提出は1部です)
グループ配布用	事前課題②、③(それぞれの科目の演習時にグループ内で使用します。)

* 提出部数・方法は、各研修団体の指示に従ってください。

【3】事前課題の内容

①演習用事例「水道橋久さん」の 100 文字アセメント

演習日1日目:科目「サービス提供に関する講義及び演習」の「個別支援会議の運営方法」では、演習用事例「水道橋久さん」を使い、サビ児管として個別支援会議を運営していく上での姿勢や取り組み方法を学びます。

別紙の演習用事例「水道橋久さん」の事例概要、「サービス等利用計画」「個別支援計画」を熟読し、現在の水道橋久さんの状況について「100 文字アセメント」を作成してください。

②事例検討会報告様式

演習日2日目:科目「人材育成の手法に関する講義及び演習」の「実地教育(OJT)としての事例検討会の進め方」では、受講者各自が作成した「事例検討報告様式」をグループ内で1事例選出して、事業所内で行う事例検討会の展開例を学びます。

別紙の「事例検討会報告様式 作成要領」を熟読し、個人情報の匿名化に留意しながら、「事例検討会報告様式」を作成してください。

③サービス担当者会議及び自立支援協議会の活用についてのまとめ

演習日2日目:科目「多職種及び地域連携に関する講義及び演習」の演習時に、事前課題を基にして、受講者各自の取り組み状況を共有し、連携のあり方について学びます。

事前課題にある設問内容(相談支援専門員との連携状況、地域生活支援拠点や自立支援協議会の状況等)について、事業所が所在する地域の現状を各自で調べ、「サービス担当者会議と自立支援協議会の活用についてのまとめ」を作成してください。

神奈川県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者「実践研修」
(2. サービス提供に関する講義及び演習「個別支援会議の運営方法」)

演習用事例「水道橋久さん」詳細情報

(2. サービス提供に関する講義及び演習「個別支援会議の運営方法」)

【演習】個別支援会議の運営方法

演習用事例「水道橋久さん」

水道橋久さん（現在、27歳）は軽度の知的障害（療育手帳B2）がある。特別支援学校の高等部を卒業後、木工が好きで集中できることもあり製造部品を作る工場で働いていたが、上司が変わり、厳しい指導を受けることも増え、精神的不調を訴えるようになり退職してしまった。

水道橋久さんが退職して半年後、大工をしていた父親が通勤途中の事故に遭い仕事ができなくなってしまった。父親は久さんの面倒が見られなくなったとして市役所に相談をした。久さんも「父に迷惑をかけたくない」として、「将来は1人暮らしをしたい」「3年後くらいにはまた働きたい」という目標を持ち、グループホーム「ピアハウス」で暮らしながら、就労継続支援B型事業所「スマイル」に通うことになった。ピアハウスでは昆虫図鑑を見て過ごしたり、スマイルでは休憩時間に友人と昆虫の話をして楽しんでいた。

それから2年が経ち、「ピアハウス」での暮らしにも慣れて1人暮らしのための生活スキルが身に付いてきた。「スマイル」では2年の間に職員も異動でだいぶ変わってしまったが、本人は持ち前の手先の器用さと集中力を活かし安定して作業に取り組むことができたため、6ヶ月前から就労移行支援にサービスを移し、就職の準備として職場体験に参加したところ、企業からは作業能力の高さを評価された。

しかし、実習後の久さんは表情も沈みがちで、「スマイル」での作業中にはトイレに行くことが多くなるなど集中できていない様子が見られ、そのうちに休みも目立つようになってしまった。担当職員が本人と話してみると「すみません、がんばります」と言ったため特に気に留めていなかつたが、その後も状況は改善していない。

「スマイル」サービス管理責任者として異動してきたばかりのあなたが、久さんの個別支援計画を確認したところ「一般就労して立派な人になるため、職場体験に積極的に参加する」という支援目標となっていた。

演習用事例「水道橋久さん」 サービス等利用計画

利用者氏名		水道橋 久	障害支援区分	区分3	相談支援事業者名	相談支援センターひまわり
障害福祉サービス受給者証番号	000XXXX###	利用者負担上限額	0	計画作成担当者	藤沢さつき	
地域相談支援受給者証番号	000XXXX???	通所受給者証番号	000XXXX##	モニタリング期間(開始年月)	20××年 7月	利用者同意署名欄
計画作成日	20××年 4月15日					
利用者及びその家族の生活に対する意図(希望する生活)	怪我をして働けなくなってしまった父親に「今まで世話になつたので迷惑をかけたくない」という気持ちから、親元を離れてグループホームで暮らしながら、「いずれは普通に仕事をして立派な人にになりたい」と思つて就労支援施設に通所をしている。仕事の自信もついて就労継続支援B型から就労継続支援に切り替えて、これから本格的に就職活動に取り組んできたいと前向きな気持ちです。また「自分のことは自分でできるようになりたい」ため、グループホームでは生活リズムを意識しながら生活し、掃除や洗濯といった家事にも取り組んでいて、いずれは1人暮らしもしたいと思っています。	以前はふさぎこみがちだったが、最近は以前の趣味を楽しめるようになつており、友人と呼べる相手もできてきた。	父親は本人の前向きな姿勢を応援したい気持ちです。	引き続き、グループホームでは生活上の様々な経験を積み、1人暮らしについて検討していく、就労移行支援では、本格的な就労活動を支援し、就労の実現を後押しします。		
長期目標		① ひとり暮らしに向けた計画を職員と一緒に立てていく。 ② 働く自信を付け、就労活動に取組む。 ③ 気の合う友人をつくり、休日を楽しむ。				
短期目標		① グループホームで自炊の練習に取組む ② 企業実習などに積極的に参加していく。 ③ 日中活動や休日で楽しめるなどを増やしていく。				
優先順位	解決すべき課題 (本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等 種類・内容・量 (頻度・時間)	提供事業者名 (担当者名・電話)	課題解決のための本人の役割 評価時期 その他留意事項
1	掃除や洗濯ができるようになつたので、次は料理にもチャレンジしたい。	自分で掃除と洗濯を継続しながら、自炊もできるようになる。	12ヶ月	共同生活援助 毎日	ピアハウス サービス管理責任者 川崎 生活支援員 海老名 世話人 鎌倉	世話人さんと一緒に料理をたして、自炊の仕方を覚えましょう。 6ヶ月
1	仕事の力をつけて、就職したい。	実際の就労を想定した作業環境も体験し、具体的な仕事のイメージを持つ。	12ヶ月	就労移行支援 月～金	スマイル サービス管理責任者 横浜 職業支援員 綾瀬	企業実習などを通じて、さらに動く自信を付けてください。 3ヶ月
3	楽しみを増やしていただきたい。	日中活動や休日の時間に今まで以上に楽しめることを増やし充実した余暇を過ごす。	12ヶ月	共同生活援助 就労移行支援 相談支援事業所	ピアハウス 川崎 スマイル 横浜 ひまわり 藤沢	自分の楽しいことを話して、これまで以上に余暇の楽しみを見つけていきましょう。 6ヶ月
4						

演習用事例「水道橋久さん」個別支援計画

利用者名 水道橋 久 様

総合的な援助の方針	引き続きグループホームでは生活上の様々な経験を積み、1人暮らしについて検討していく、就労移行支援では、本格的な就職活動を支援し、就労の実現を後押しします 暮らしの中で本人の楽しみを見つける手助けをし、潤いのある生活を目指します		
長期目標(内容、期間等)	・働く自信がつき就職活動に取り組んでいる		
短期目標(内容、期間等)	・一般就労して立派な人となるため、職場体験に積極的に参加する		

具体的到達目標	本人の役割	支援内容 (内容・留意点等)	支援期間 (頻度・時間・期間等)	担当者	優先順位
仕事の力を持つて、就職したい。	企業実習などを通じて、さらに働く自信を付けていきます。	希望職種を踏まえ、より多くの体験が出来るよう企業実習を調整します。 実習中は様子を確認して不安なく進められます。	3ヶ月 頻度:月1ヶ所 実習期間:1週間前後	横浜(サビ管) 綾瀬(職業指導員)	1
社会人として必要なマナーや得意なスキルを身につけていきましょう	就職を見据え、マナーや希望職種のスキルが身につくプログラムを提供します。	3ヶ月 月～金 週5日	横浜(サビ管) 綾瀬(職業指導員)	2	
楽しみを増やしていく	自分の楽しいことを話して、これまで以上に余暇の楽しみを見つけていきましょう。	面談:月末に1回 13時～ 困った時・不安な時はいつでも	横浜(サビ管) 綾瀬(職業指導員) つでも	3	

年 月 日 利用者氏名 _____ 印

サービス管理責任者 _____ 印

事前課題② 「事例検討会報告様式」 作成要領

次の内容を確認いただき、事前課題②「事例検討会報告様式」を作成してください。

本様式の提出が無い場合、研修に参加できませんので予めご了承ください。

- ① 実践研修「人材育成の手法に関する講義及び演習」の単元「実地教育としての事例検討の進め方の理解」では、受講者各自が作成した「事例検討会報告様式」を用いて演習を行います。
- ② 記入事例は、可能な限り、現職場での継続事例(現在、支援を行っているケース)で作成をお願いします。難しい場合は、終了事例(過去に支援を行ったケース)でもよいです。
ただし、いずれの場合であってもご自身が直接担当している事例をご記入ください。
- ③ 記入について(個人情報保護の観点から、個人情報を匿名化する)

厚労省「医療・介護事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドライン」(2004年12月)によると、個人情報に含まれる氏名、住所等、個人を識別する情報を取り除くことで、特定の個人を識別できないようにすれば個人情報の匿名化が可能であるとしています。

個人情報保護の観点から、本事例検討会報告様式では次のとおり記載し、事例の匿名化をお願いします。記述内容で匿名化ができないない項目がある場合は、再提出いただきます。

【記入方法】

- ① 氏名や特定の地名、支援機関や施設名等は仮名(アルファベット表記)とする。ご自身の所属する事業所も仮名とする。
(例)A氏、F県D市、B事業所
- ② 年齢は○○歳代(前半・後半)とする。
- ③ 病名、既往歴は事例の状態像を把握するために必要不可欠なもののみとする。
- ④ 支援経過の日付は、事例展開に必要不可欠なもののみとし、○年○月、○年前など記載する。

事例検討会報告様式「記入のポイント」

A4・1枚以上にならないように記入をお願いします。

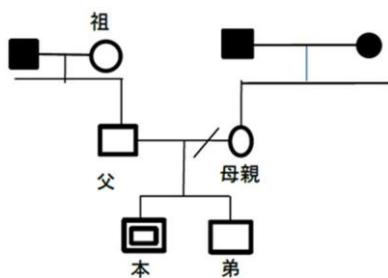
受講者番号： ●●●●

受講者氏名： 横浜太郎

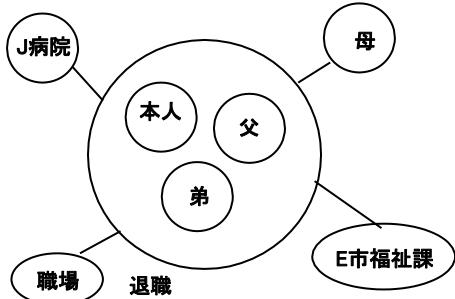
仮名:A氏	年齢： ●歳代	性別： <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
-------	---------	---

障害及び疾患名：

家族構成(ジェノグラム) *手書き可



エコマップ *手書き可



提出理由(支援者自身が困っていること、具体的に検討してもらいたいこと)

支援者自身(一人称で)具体的に記載する。例えば、「私が〇〇に困っている」、「私が〇〇さんの支援方針がわからない」など。

本人の生活に対するイメージ 本人の言葉や行動

できるだけご本人の言葉で書く。表情や態度、具体的で事実を記載。支援者の予測は可能な限り避ける。本人の訴えがない場合は、「ない」と記入。但し、家族や周辺の想いや期待があれば参考意見として記入。(児童の事例も同様)

経過と現状(概要)

できるだけ簡潔にわかりやすく記載。出会った経過が現在の状況(暮らしぶり)を記載し、過去にできていたことや現在の興味、好きなことなど、個人や環境のストレンジスなども意識しながら、当事者を他者に紹介するように記載する。具体的には、「人柄」「暮らしぶり」など自分の友人を他者に紹介するイメージを持つ。

ス ト レ ン グ ス	性格・人柄/個人特性 <u>事実として書けることがあれば記載する。</u>	才能・素質 <u>事実として書けることがあれば記載する。</u>
	環境のストレンジス <u>事実として書けることがあれば記載する。</u>	興味・関心/向上心 <u>事実として書けることがあれば記載する。</u>

【ジェノグラム】

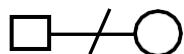
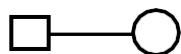
クライエントの家庭状況を把握する為、家族構成を図式化して描き出すことにより、クライエントが抱える悩みや課題を解決する一助として役立てる“マッピング技法”的一つである。

以下の基本図形を用意、作成してください。

男性 女性 で表記します。 生命(他界)は、 で表記します。

本人は、男性 女性 で表記します。

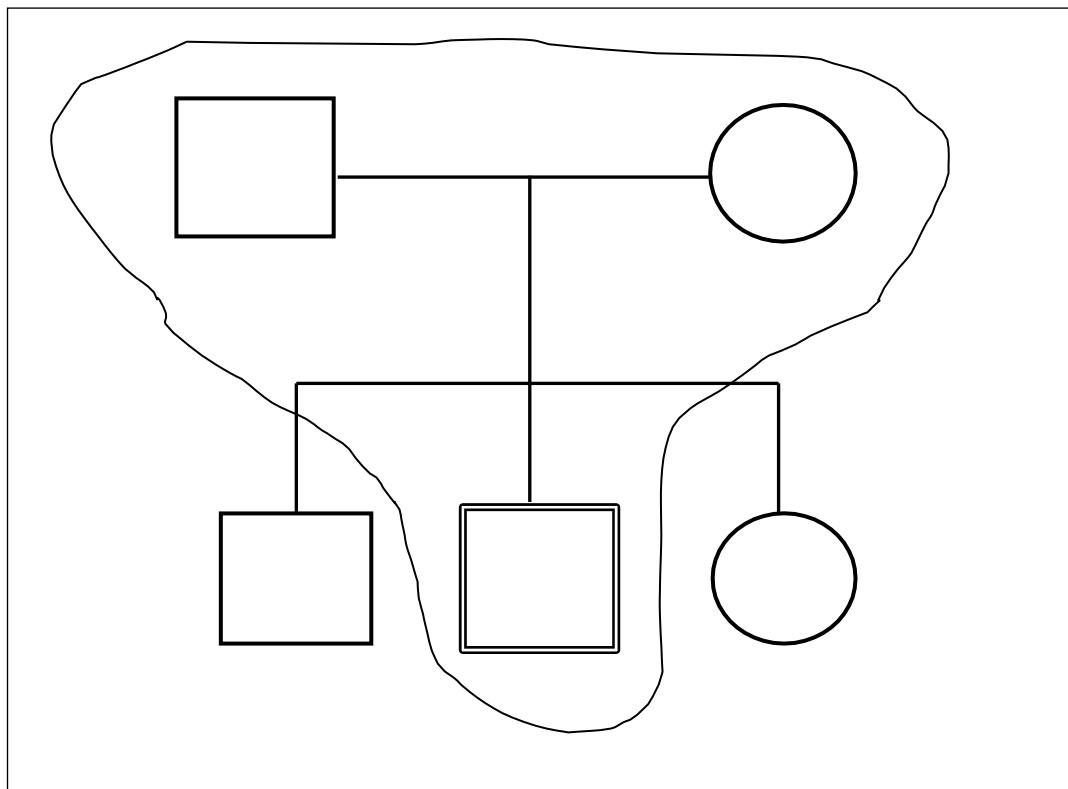
婚姻関係は以下の様に線で表記します。



婚姻関係の場合

離婚・別居の場合

例) 男性 A 氏は、両親と 3人暮らし。兄と妹がいるが、別居して生活している。この場合のジェノグラムは以下の様になります。※手書き線は、同居家族を表しています。



【エコマップ】

クライエントを中心に、家族や福祉サービスなどの社会資源を図式化して描き出すことに
より、ケースを取り巻く、ソーシャルサポートネットワークを視覚的に把握することができる
“マッピング技法”的一つである。

例) A 市在住のケース B 氏は、C グループホームで生活し、日中は D 生活介護事業所で生活
している。また、E 相談支援事業所がサービス等利用計画を担当。家族は両親と姉がいる。休
日に F ボランティアグループと外出し、登山している。

